

2025 年度立教大学一般入試 「国語」入試問題 出題意図

今年度の全6試験日のうち、2月11日を除く試験日には、現代文2題、古文1題を出題した。11日の文学部限定の試験日には、現代文1題、古文1題、漢文1題を出題した。

現代文

いずれも3000～4000字程度の文章をもとにして、学力を多面的に問う。論説文が中心だが、小説を出題した試験日もある。論説文のジャンルは芸術論や文学論、さらに社会科学まで広範におよぶので、日頃から関心を広く持って受験することが望まれる。文章の読解力とともに、繊細な文章表現にこめられた含意を、適切に理解することが求められる。設問数も決して少ないわけではないので、時間内に正解を導き出すための正しい判断力も必要となる。

- ・すべての試験日で標準的な漢字の書き取りを課した。基本的な語彙力とともに、それを正しく筆記できる能力を問うた。
- ・すべての試験日で記述式問題を出題した。傍線部の前後のコンテキストに加えて、文章全体の趣旨を正しく理解したうえで、文中の語句を適切に組み合わせて正確に答えることが求められる。文章を簡潔明瞭に書く表現能力とともに、文章全体にまたがる著者の主張を捉えるだけの視野の広さ、および論理的な思考力をそこで問うた。
- ・傍線部の意味を問う問題、および文章全体の正誤をたずねる問題も出題した。いずれも、著者が伝えようとする内容やニュアンスを的確に読みとれるだけの正確な判断力が求められる。加えて、解答の論拠を探し出すための発見能力もそこでは問われる。

古 文

いずれも800～1200字程度の文章をもとに出題している。古文の出題にあたっては、上代から近世までの作品を広く対象として、さまざまな場面を扱った文章を選んでおり、時代やジャンル等を問わない幅広い古文の知識と、それに基づく正確な読解力を求めている。すべての試験日において以下のような問題を出題した。

- ・基礎的かつ重要な語彙および文法事項について問う選択問題を出題した。ただし語彙問題、文法問題のいずれも、覚えている知識を単純に問うのではなく、傍線部の前後あるいは文章全体の文脈をふまえて、的確な正解を選ぶことのできる読解力を必要とする問題とした。
- ・記述式問題では、傍線部前後の文脈を正確にふまえたうえで、単語の正しい意味を記したり、適切に表現された現代語訳を作成できる能力を問うた。
- ・内容読解問題においても、傍線部だけでなく、その前後の文脈あるいは問題文全体を正確に読み取れているかどうかを問うた。さらに、文章全体をていねいに把握しないと選択肢の妥当性を判断できないような本文合致問題も出題した。

漢文

文学部限定の試験日には、文学部での学びに必要不可欠な考え方を内在する科目として、古文だけでなく漢文も出題している。漢文は、単語、文法問題のほか、書き下し文、文の解釈、文章全体を通した本文合致問題などを出題し、基本的な漢文の能力を問うた。